



2022年3月期 第2四半期

(2021年4月1日 ~ 2021年9月30日)

# 決算説明資料

**ENOMOTO Co.,Ltd.**

東証一部 証券コード:6928

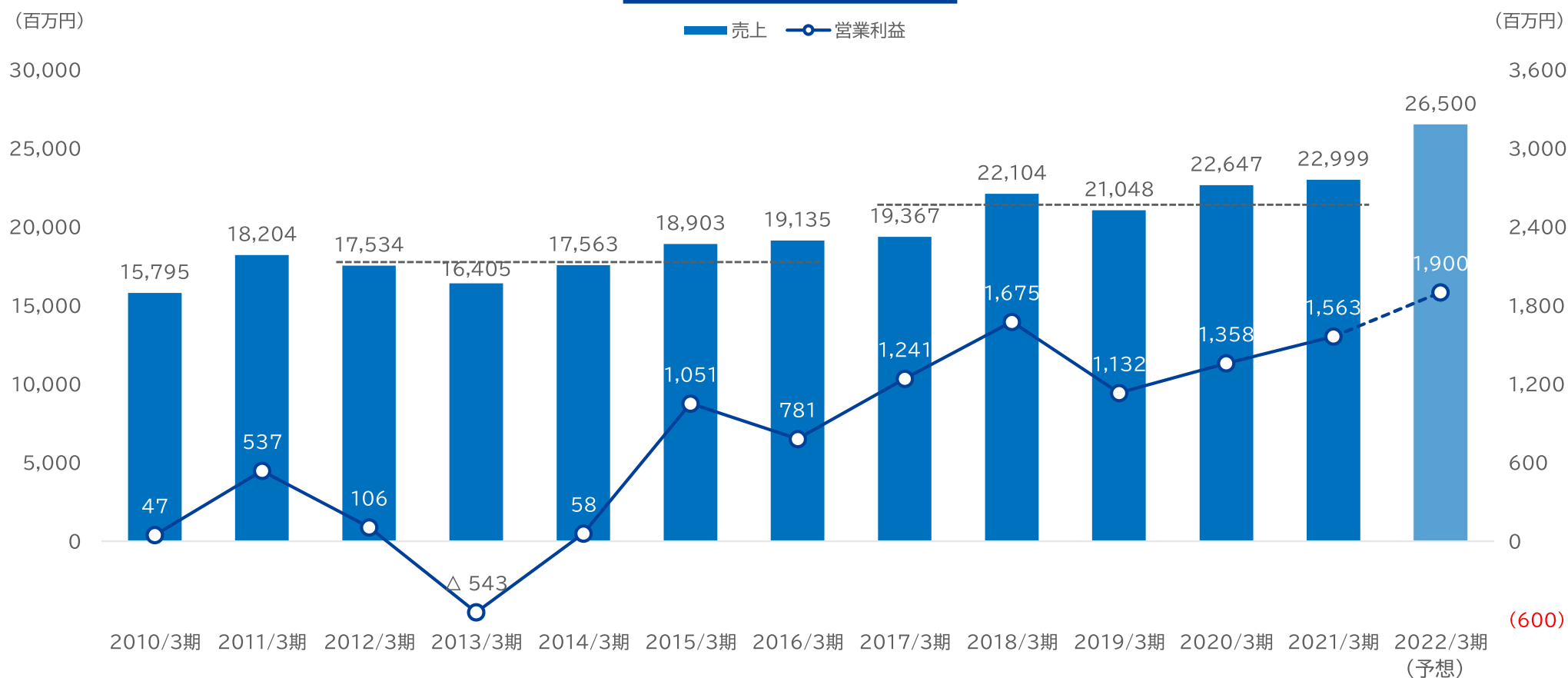
1. 会社概要	P. 3
2. 市場環境	P. 9
3. 特長・強み	P.21
4. 2022年3月期第2四半期決算	P.27
5. 2022年3月期業績見通し	P.36
6. 中長期的施策の進捗	P.40
Appendix	P.46

# 1.会社概要



- 2015年以降、スマートフォン向けの狭ピッチコネクタ、半導体用リードフレームの伸長により、売上高は前期実績で230億円弱、営業利益も15億円超の水準へ
- 当期は売上高265億円、営業利益19億円と売上・利益とも過去最高を予想

### 売上高・営業利益の推移



(600)

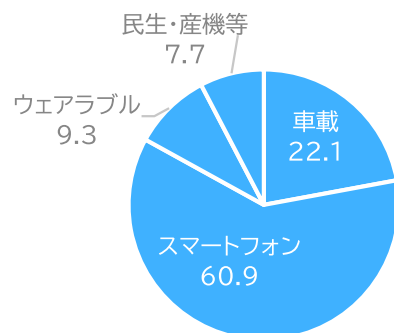
- ・ リードフレームでは車載向けを中心に高電圧・高電流仕様の製品が伸長
- ・ コネクタ部品ではスマートフォンやウェアラブル端末向けの狭ピッチ、低背製品が伸長

## その他

売上高 688百万円  
 構成比 3.0%

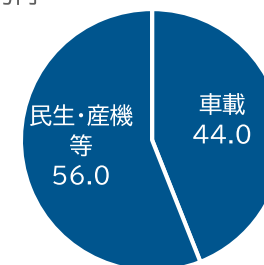
## コネクタ部品

売上高 12,384百万円  
 構成比 53.8%



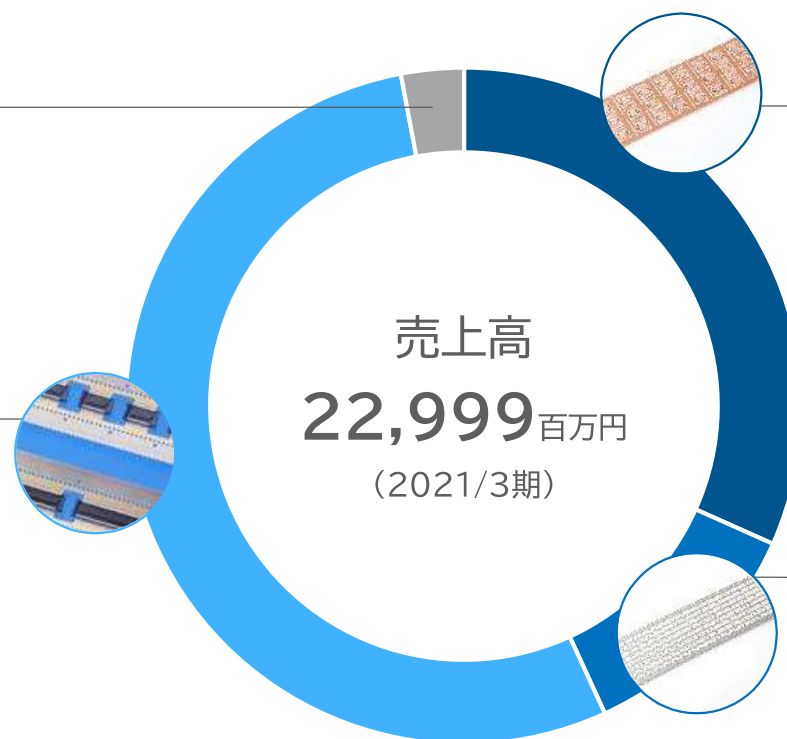
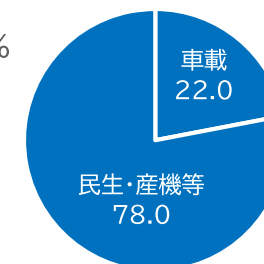
## IC・トランジスタ用リードフレーム

売上高 7,287百万円  
 構成比 31.7%



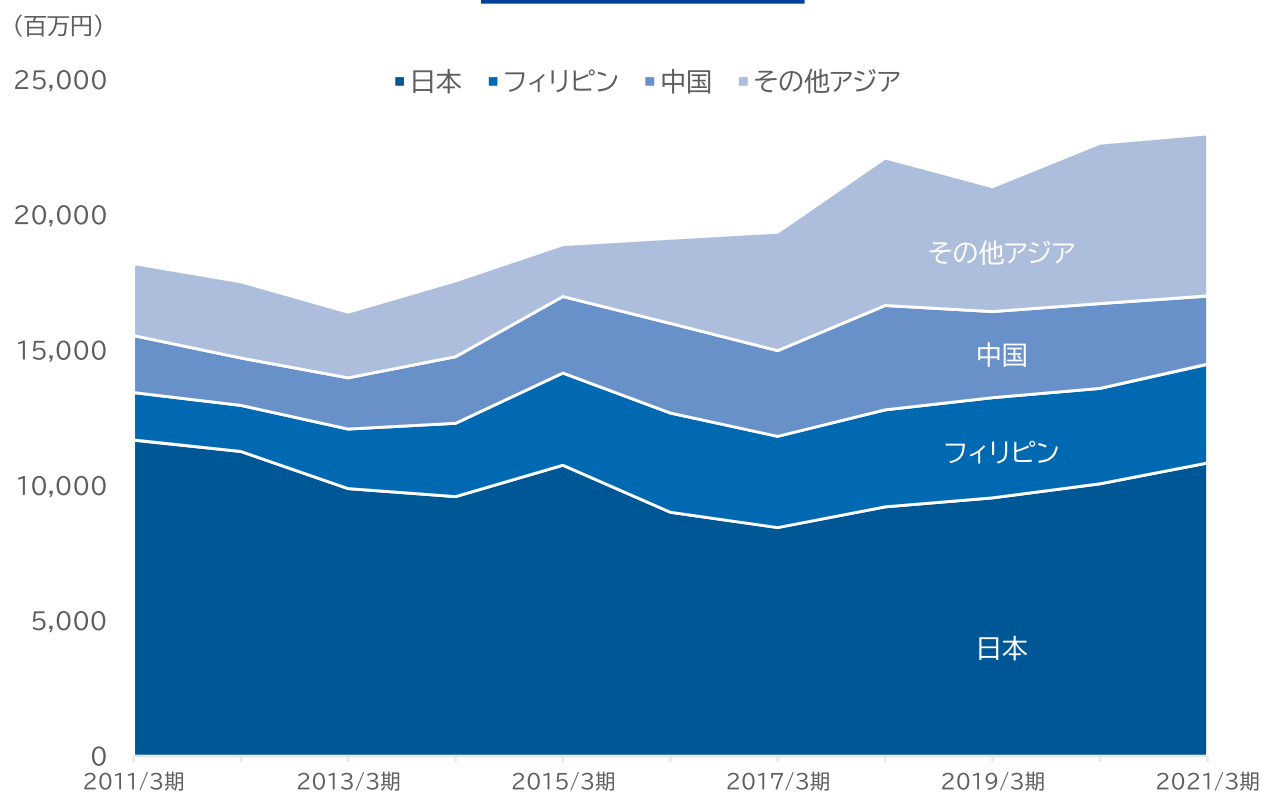
## オプト用リードフレーム

売上高 2,639百万円  
 構成比 11.5%

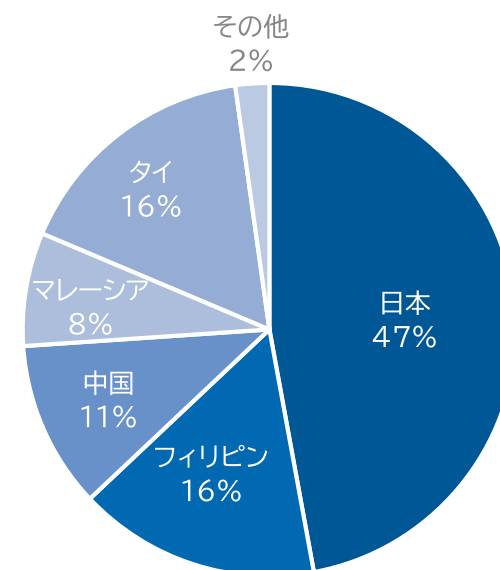


- 地域別売上高は日本が47%、アジアを中心に海外が53%
- 中国・東南アジアでの情報通信端末・自動車の生産拡大に伴い、アジアでの販売が10年間で約2倍に伸長

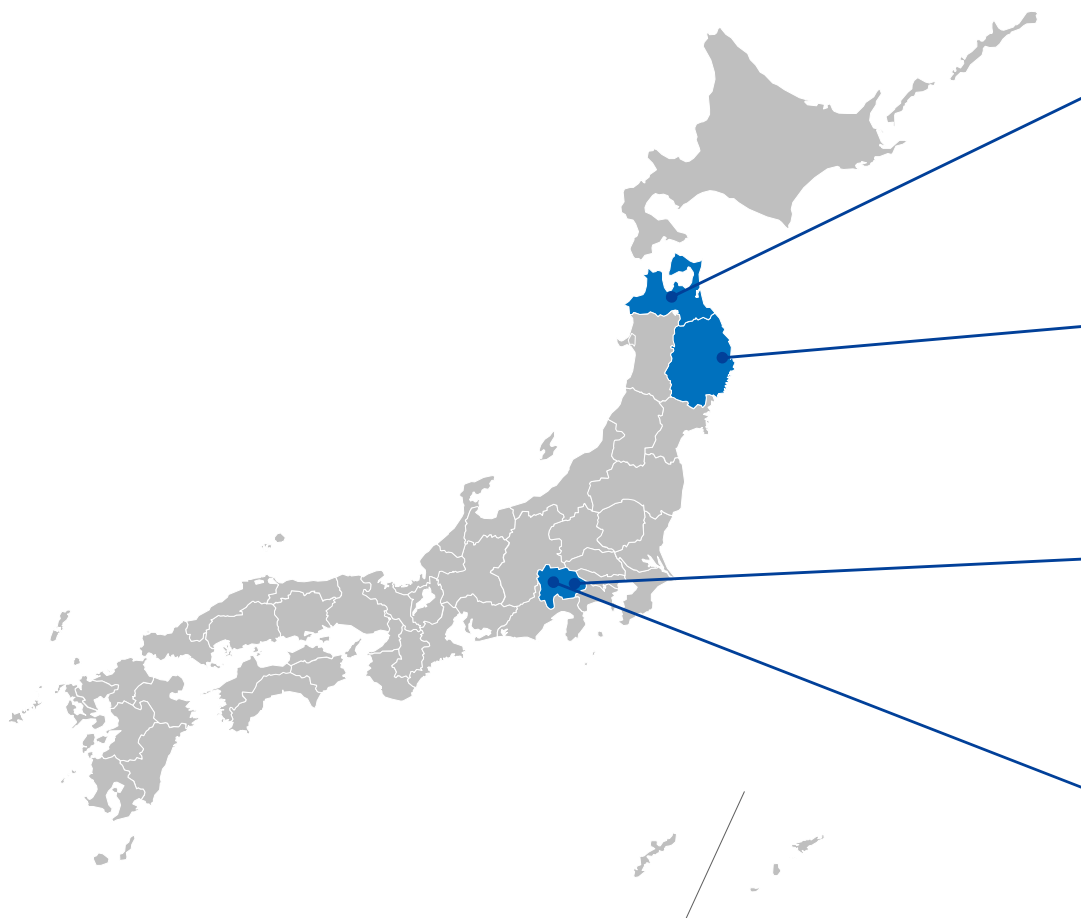
地域別売上高推移



2021年3月期実績



- スマートフォンやウェアラブル端末の需要増加に対応するため、津軽工場を増築し狭ピッチコネクタの生産能力を増強、5年間の投資額は31億円、竣工は2021年11月末予定
- リードフレームはパワー半導体向けなど高電圧・高電流対応品の生産体制を強化



## 津軽工場

主要生産品目

スマートフォン・ウェアラブル端末向けコネクタ



## 岩手工場

主要生産品目

車載向け受動部品

スマートフォン向けコネクタ



## 本社工場(上野原)

主要生産品目

オプト用リードフレーム

リレー部品



## 本社工場(塩山)

主要生産品目

IC・トランジスタ向けリードフレーム

オプト用リードフレーム

- 中山工場(中国)では、リードフレームやコネクタ部品を、金型製作からプレス加工・メッキ・樹脂成形・コネクタの組み立てまで一貫生産、海外企業や日系中国拠点向けに販売
- フィリピン工場では、主にコネクタ部品を、金型製作からプレス加工・メッキ・樹脂成形まで一貫生産、主に日系の東南アジア拠点向けに販売

## 中国



営業拠点 **ENOMOTO HONG KONG Co.,Ltd**  
生産拠点 **ZHONGSHAN ENOMOTO Co.,Ltd.**  
主要生産品目 IC・トランジスタ用リードフレーム  
スマートフォン向けコネクタ部品

## フィリピン



生産拠点 **ENOMOTO PHILIPPINE MANUFACTURING Inc.**  
主要生産品目 エアバッグ向け大型コネクタ部品  
車載向けスイッチ部品  
IC・トランジスタ用リードフレーム

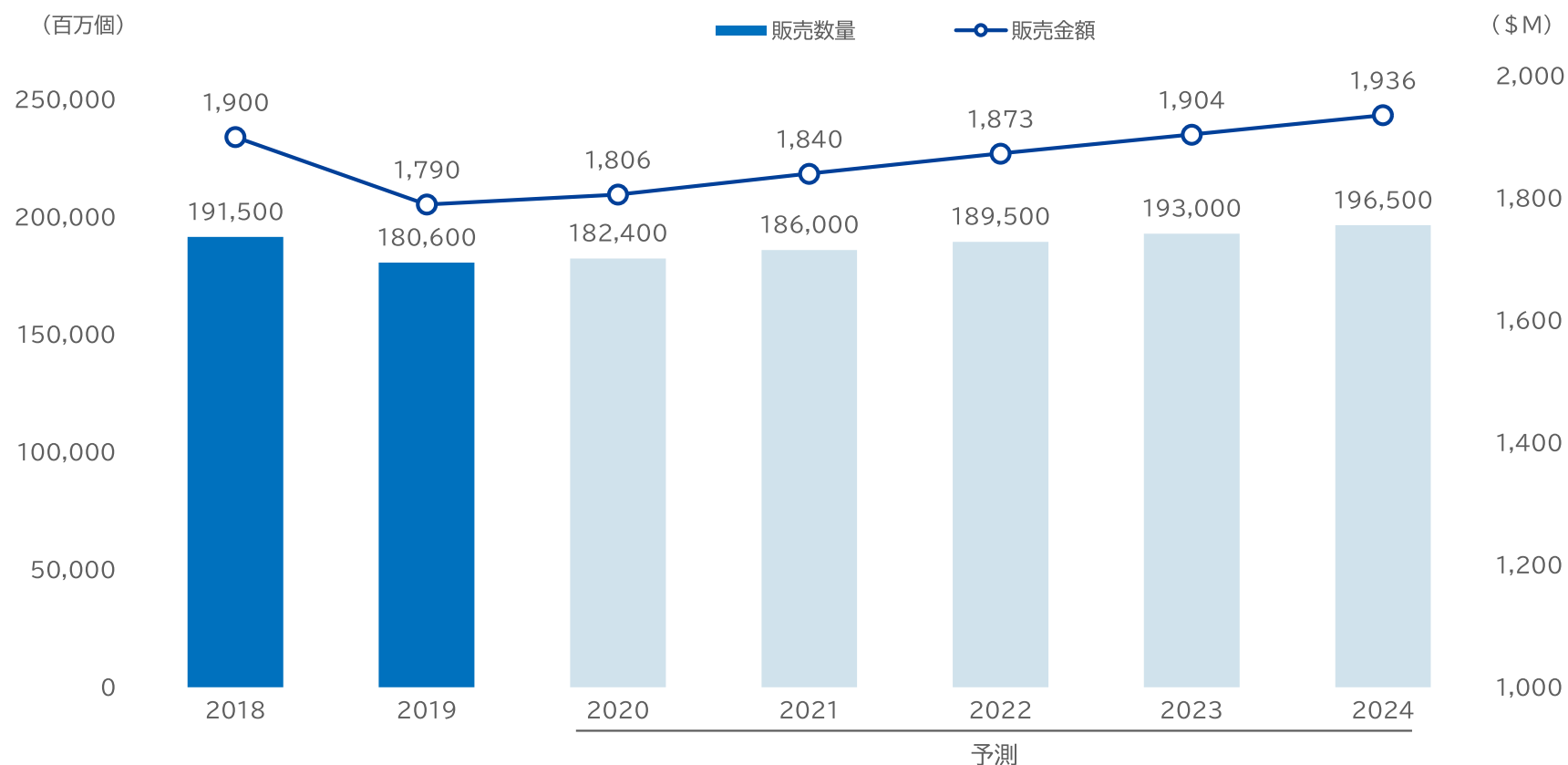


## 2.市場環境



- HEV・EVや情報通信機器の電力損失低減のため、パワー半導体への注目が高まっている
- パワー半導体などディスクリートの伸長に伴い、リードフレーム市場の成長は続く  
特に、ワイヤレスボンディング方式のリードフレームが増加
- 半導体用リードフレームのグローバルシェアは約5%で世界第9位

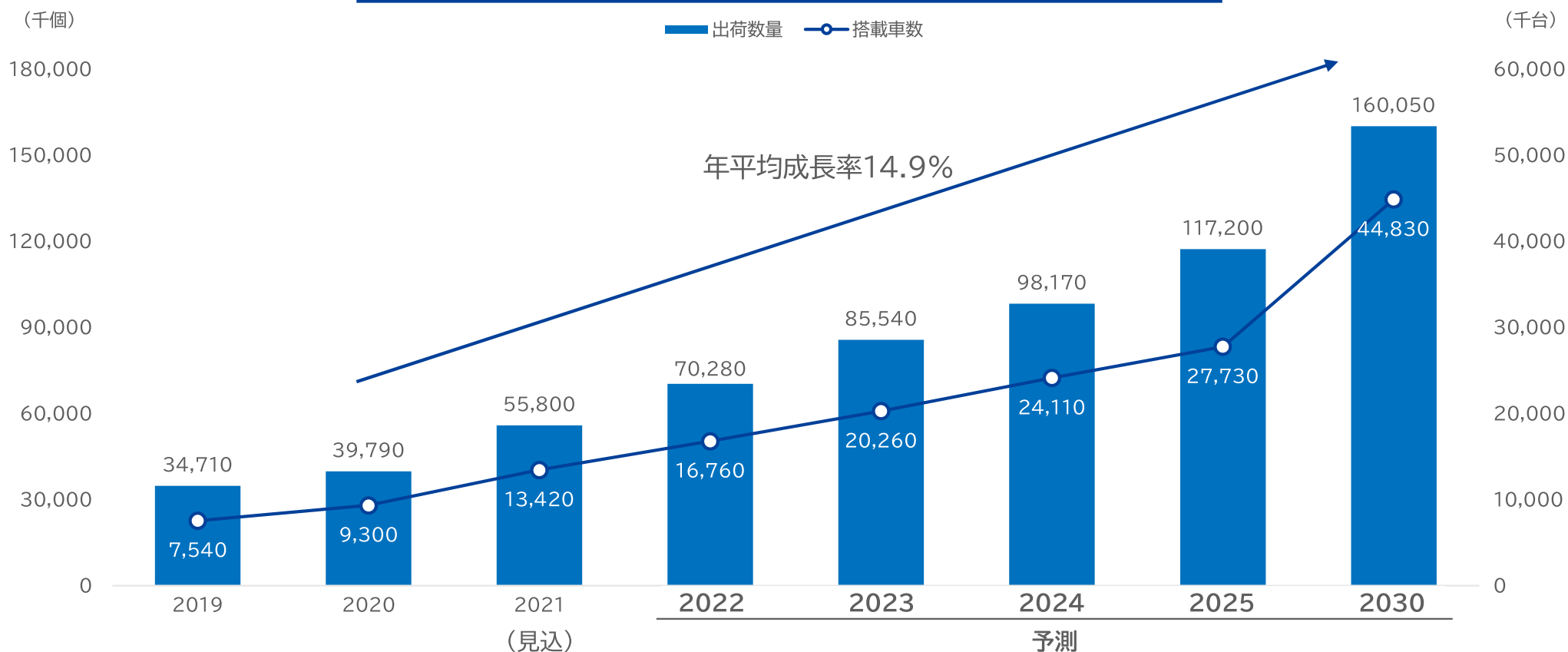
### 半導体用リードフレームの世界市場規模推移



出所:富士経済「2020年 半導体材料市場の現状と将来展望」

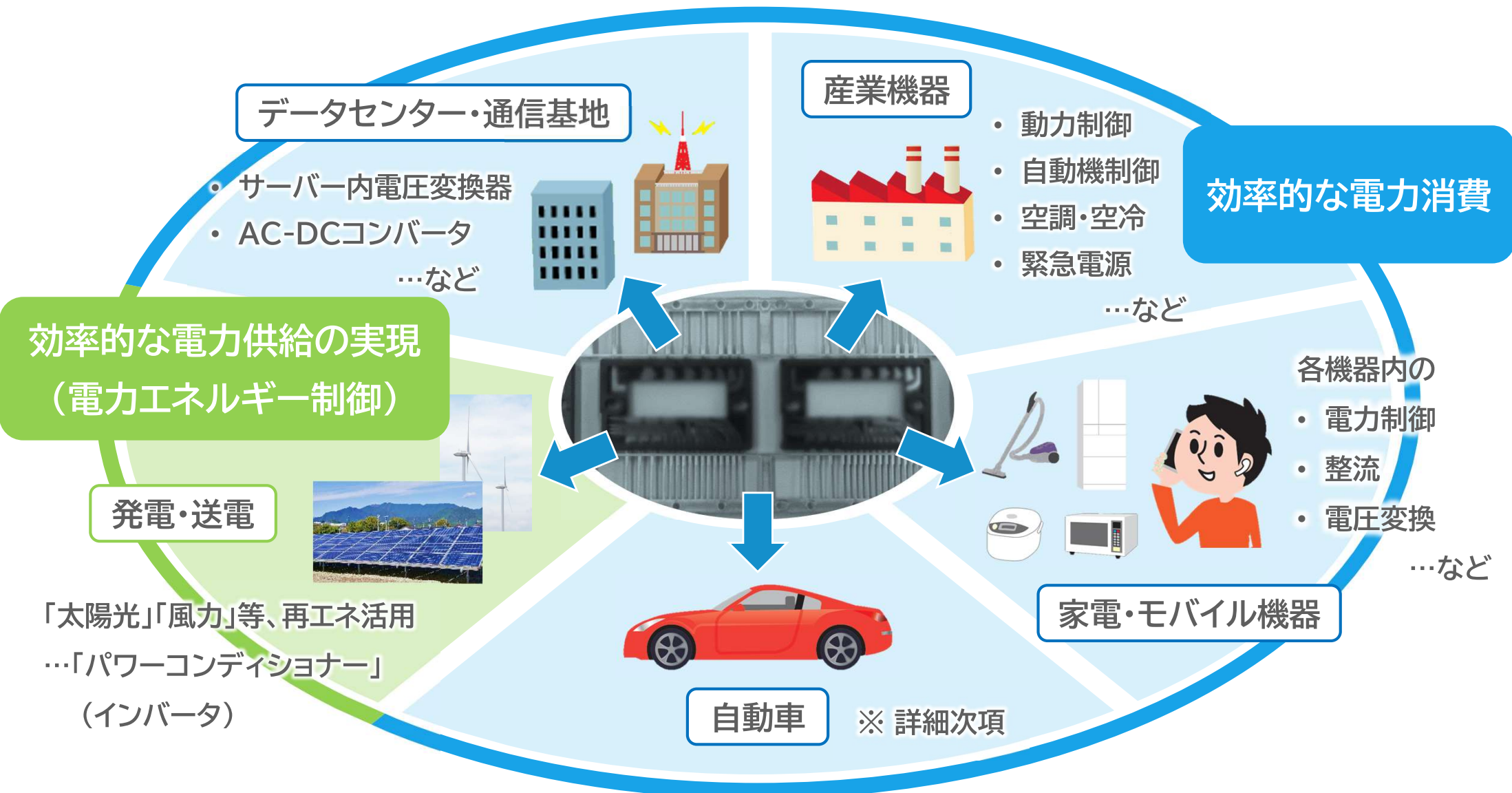
- 車載向けパワー半導体は日本ではSHV向け製品、欧州、北米、中国はPHVやEV向けの製品が拡大していく見通し
- 2030年までの10年間で出荷数量は年平均14.9%の成長を予測

## 世界の車載向けパワー半導体の出荷数量規模推移と予測



注:SHVはStrong Hybrid Vehicle、PHVはPlug in Hybrid Vehicleの略  
出所:富士キメラ総研「2021 次世代カーテクノロジーの本命予測」

- 環境側面からも、新たな発電技術の開発・発展、高効率な電力供給を支える高機能パワー半導体に注目が集まる
- 高温動作、高パワー密度、高速動作などにより、高出力・省エネに寄与



## エンジン制御

ECU  
(エンジンコントロールユニット)

## ADAS

センサー

## ボディ制御

ヘッドランプ  
ルームランプ  
AV・アクセサリ  
パワーウィンドウ  
オートマチックドアロック

## パワートレイン制御

HEVモーター  
トランスミッション  
ブレーキ  
ステアリング  
ICレギュレータ

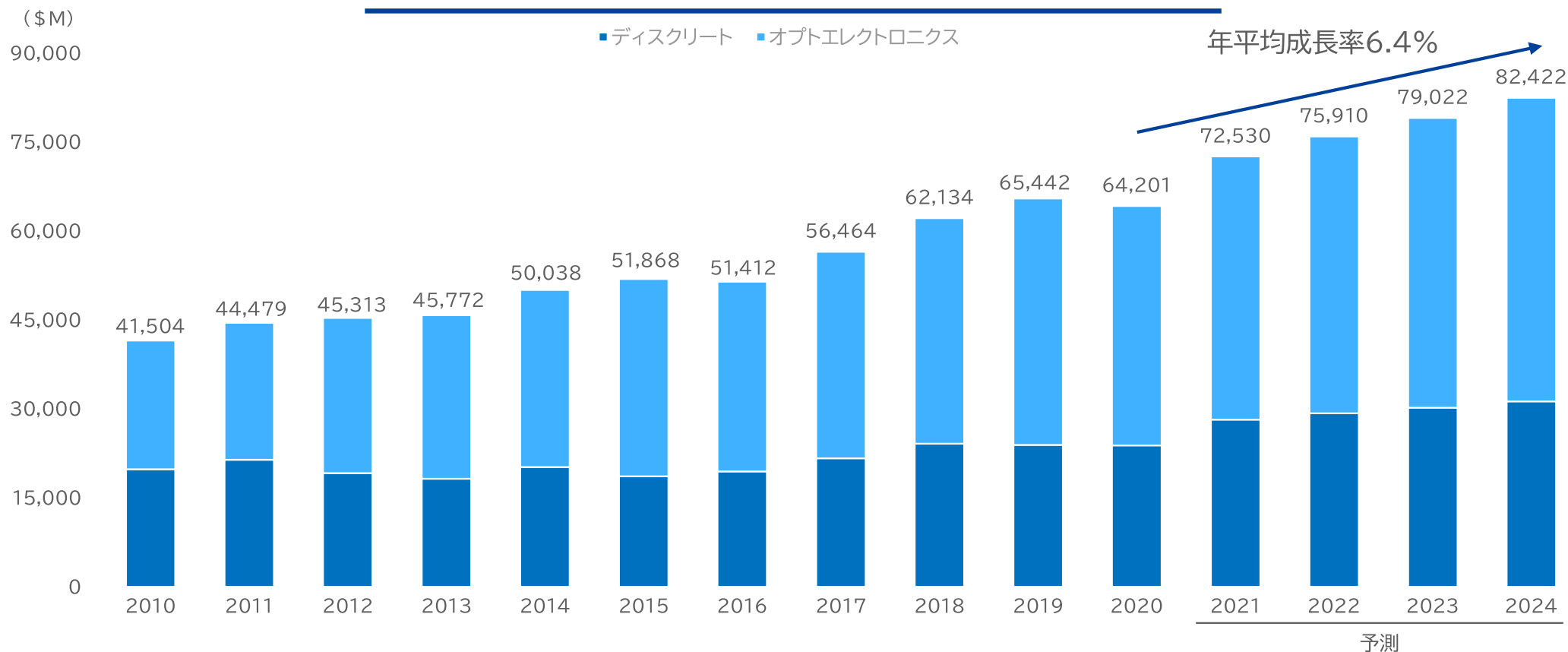


パワーデバイス適用製品  
計40品種以上

# リードフレーム市場における ディスクリートとオプトエレクトロニクスの動向

- ・ オプトエレクトロニクス市場は、車載向けの回復や部品搭載率上昇、デジタルサイネージや大型ディスプレイの需要回復などの要因から成長が続く
- ・ ディスクリート市場は、パワー半導体等がEVや5G基地局、データセンター向けなどにより中期的にも大きく成長

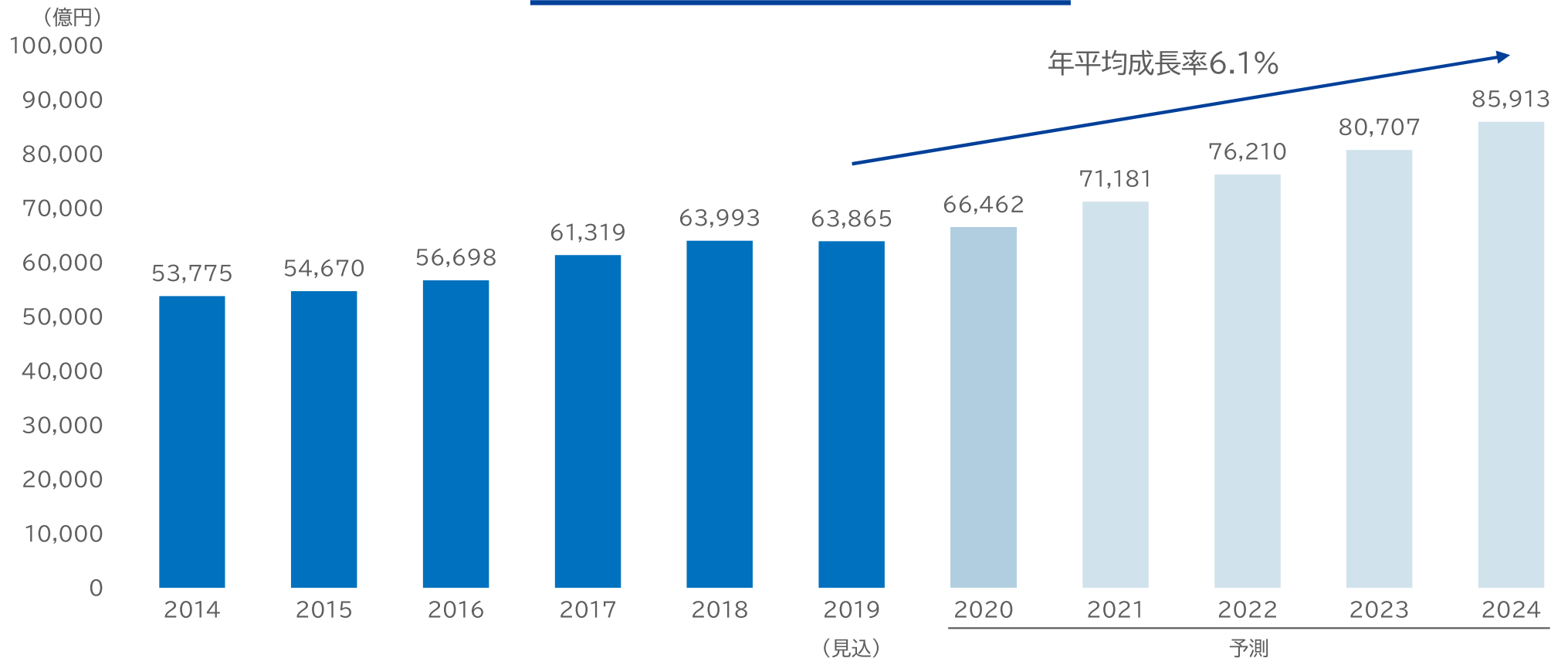
世界のディスクリート半導体とオプトエレクトロニクス市場の推移



出所: WSTS「世界半導体市場統計」とOmdiaのデータをもとに当社作成

- コネクタ市場も年平均約6%の成長が続くと予想
- 2020年以降は車載向け部品の搭載率上昇、スマートフォンの高機能化やウェアラブル端末などのワイヤレス化が市場を牽引

コネクタ世界市場規模の推移と需要予測



出所:産業情報調査会「2019年版 コネクタ市場」

- スマートフォン・ウェアラブル端末向けの極小部品から、自動車向けの特殊で大きな部品まで幅広く対応
- 超微細な部品を高品質大量生産



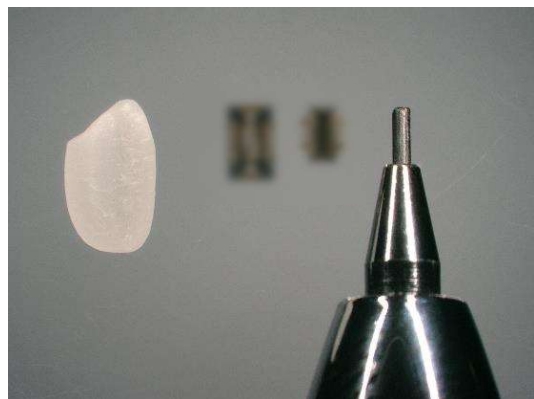


# 3. 特長・強み



1

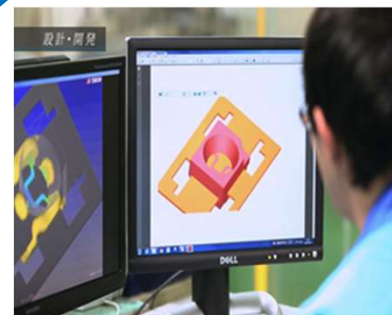
金属と樹脂の複合加工技術力



技術力

2

高品質・大量生産体制を支える  
生産技術力



3

海外でも日本品質の生産体制



フィリピン



中国

一貫生産

4

独立系としてのサービスポジション

材料メーカーや  
協力会社

幅広い顧客  
ニーズ

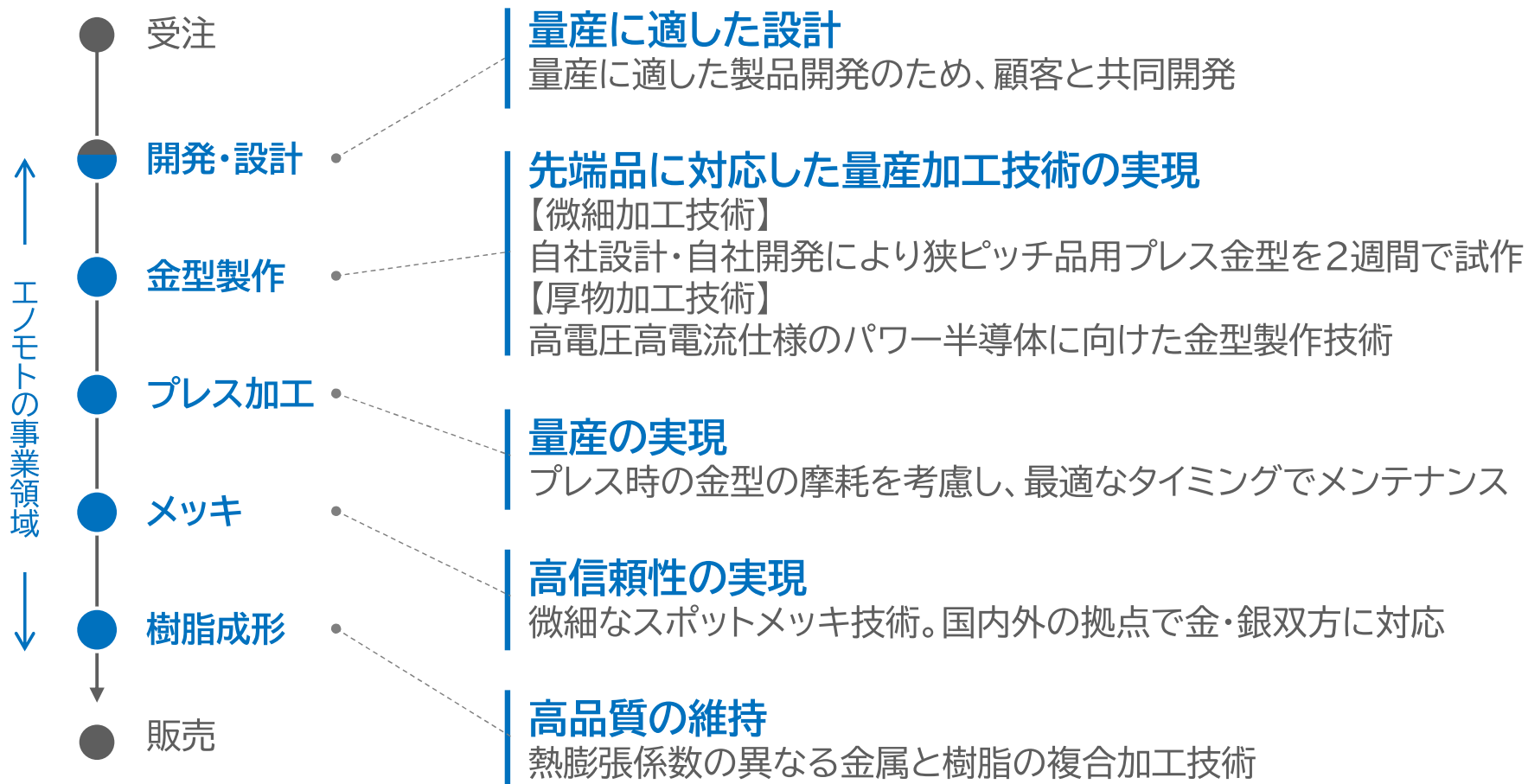
最適な調達

エノモト

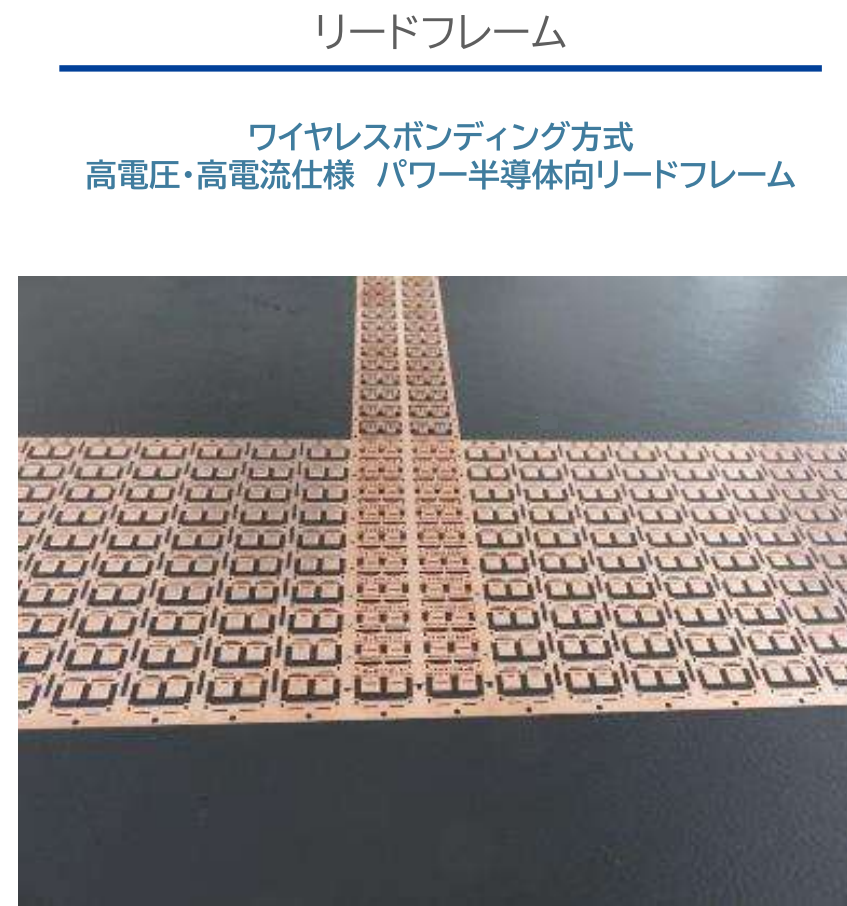
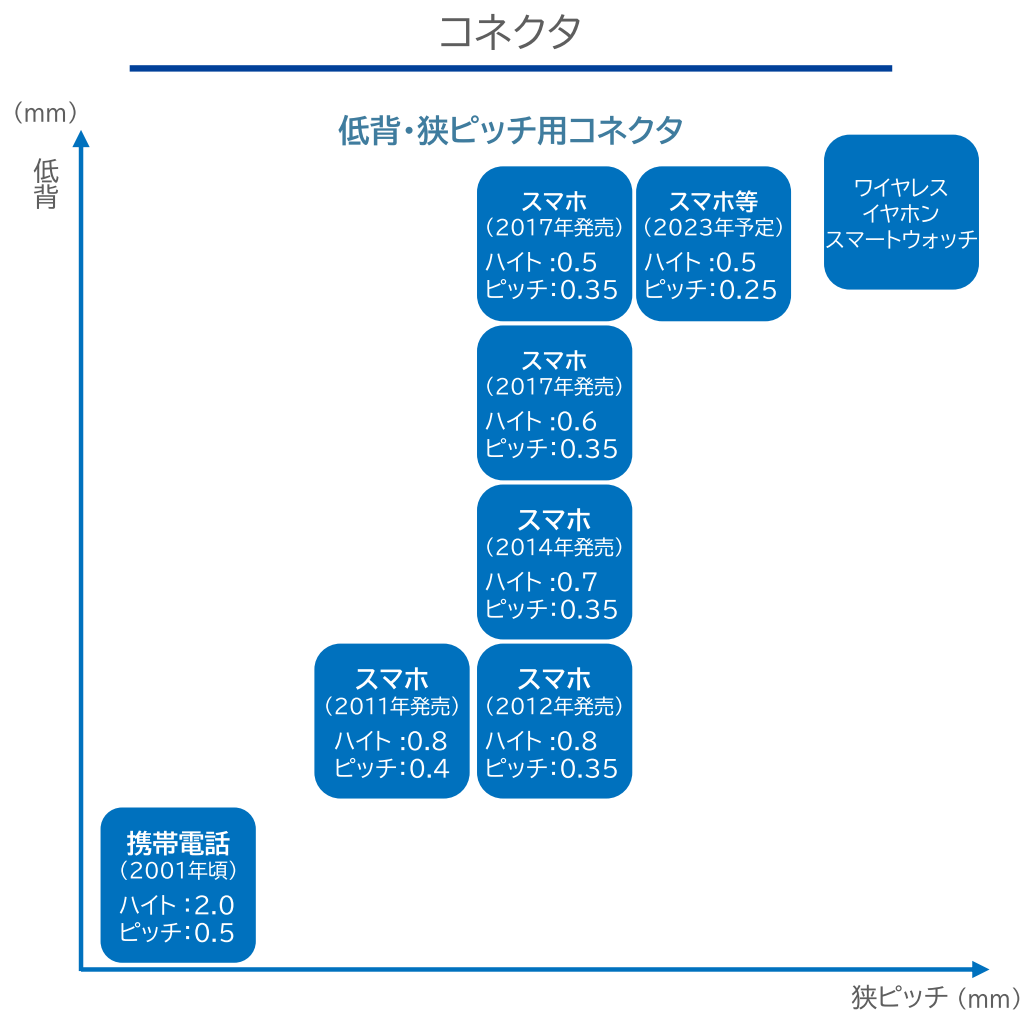
柔軟な対応

特定の資本に縛られない  
自由な営業方針

- ・ 強みである金型の設計・開発、プレス加工の技術を活かし、生産に特化
- ・ スマートフォン向けなどの狭ピッチコネクタ、パワー半導体用リードフレームの精密加工に強み
- ・ 狭ピッチコネクタ、パワー半導体用リードフレームを大量生産できる企業は限られ、当社への受注が増加



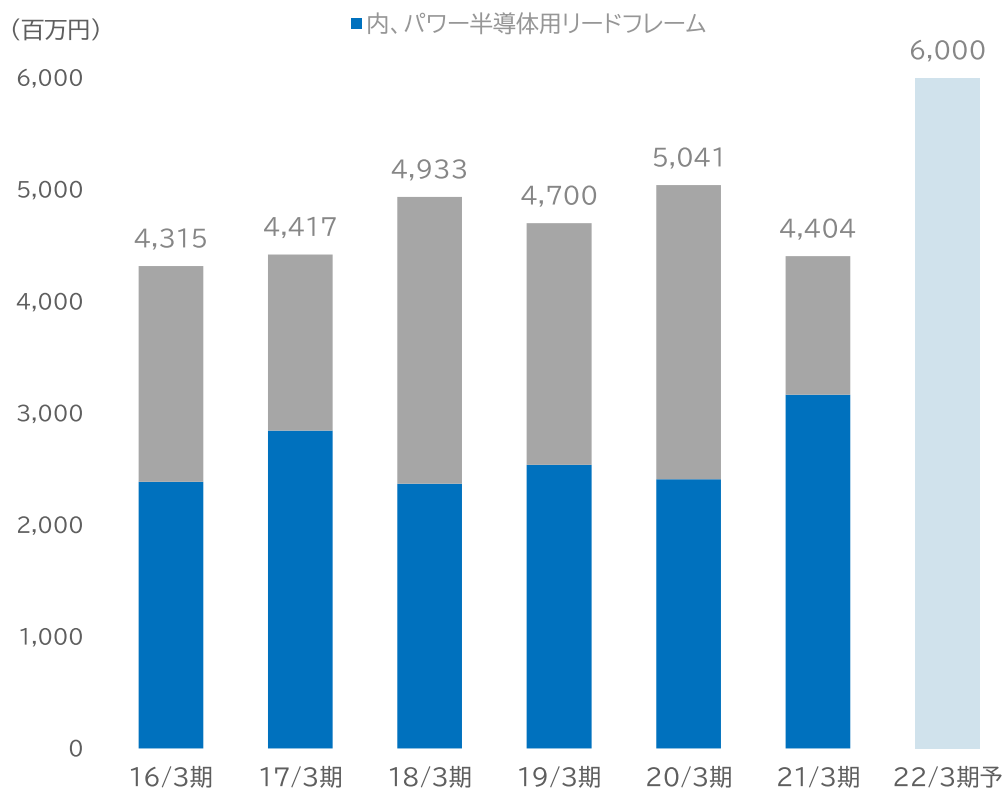
- ・ 低背・狭ピッチコネクタ、パワー半導体用リードフレームを大量生産
- ・ 高い精度を出すための金型製作、量産に耐える最適なタイミングでの金型メンテナンス技術に強み



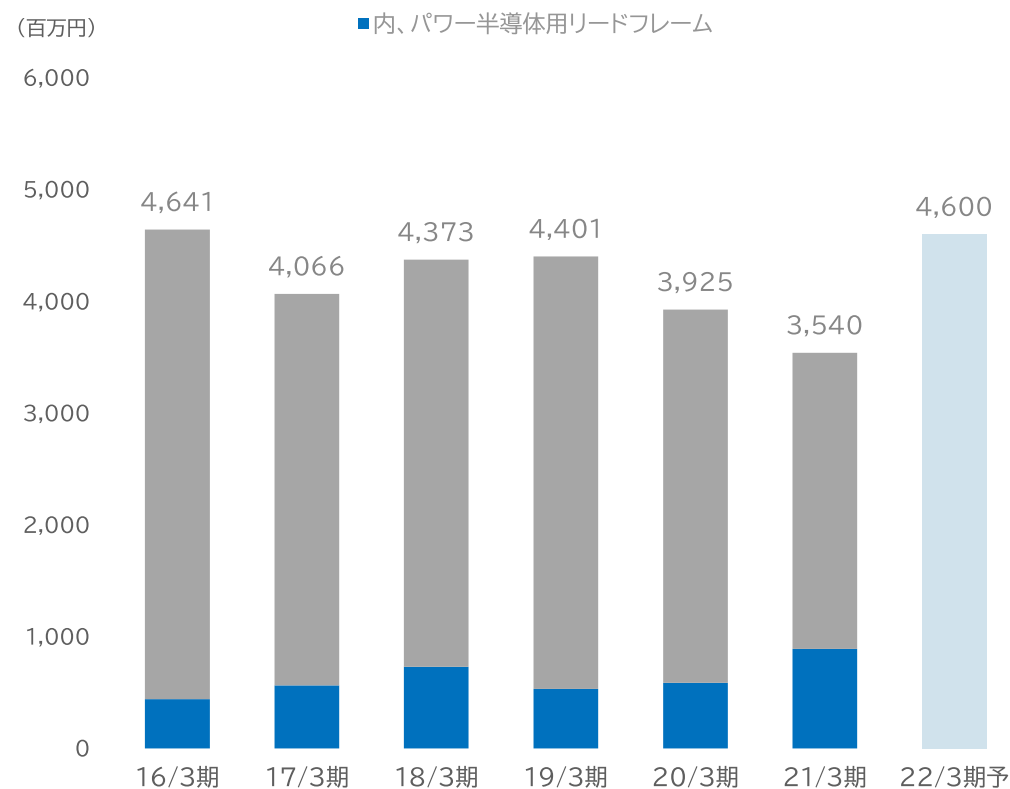
# 強み3 海外でも同品質の生産体制

- 日系機器メーカーの工場移転、海外企業の台頭に対応し、中国・フィリピンでも一貫生産
- 金型製作からプレス加工・メッキ・樹脂成形まで一貫生産を行っている数少ない日系企業
- 微細で高品質な製品を海外工場で量産できることから、売上高は増加

### 中国子会社の売上高推移

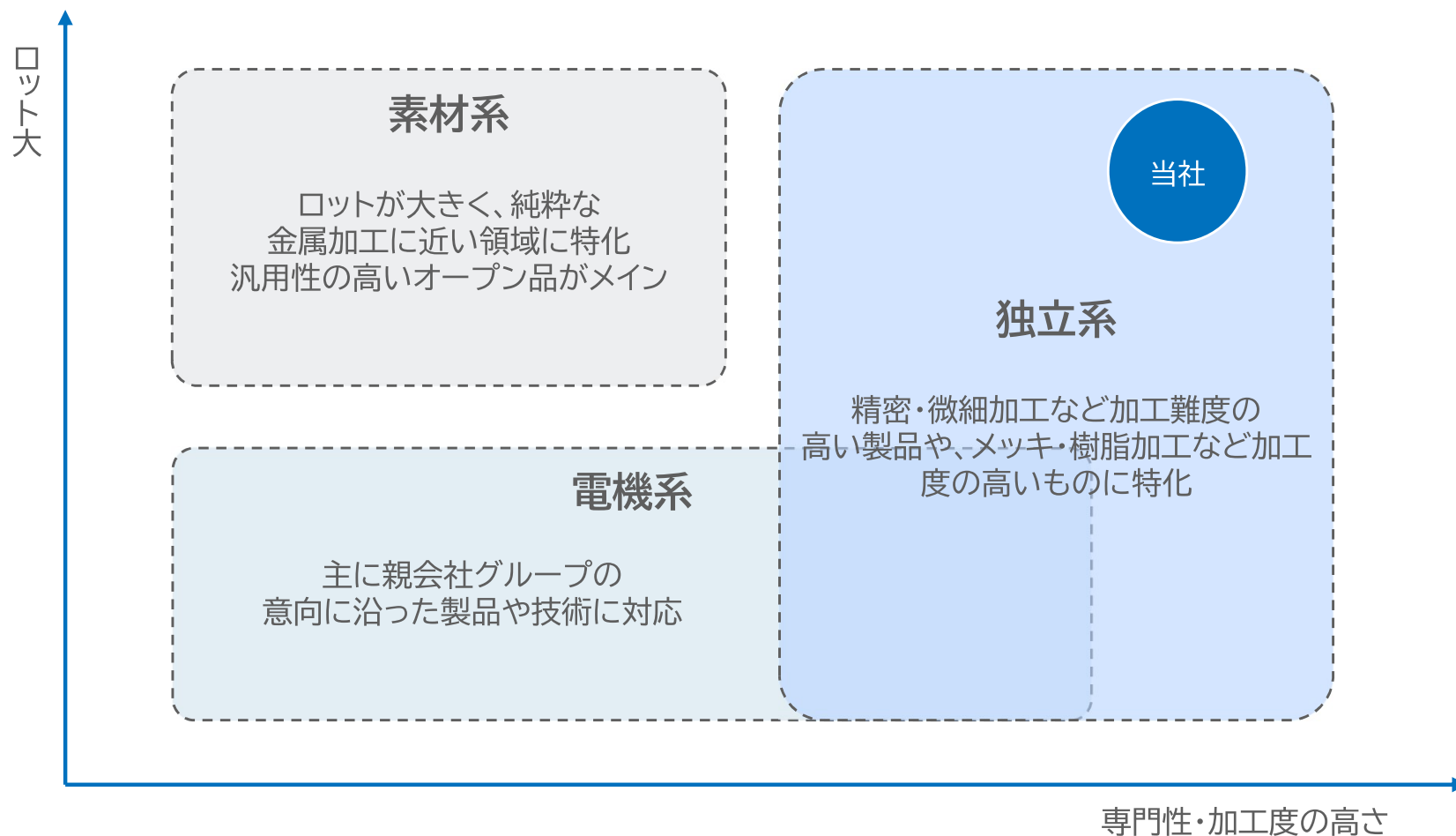


### フィリピン子会社の売上高推移



- 部品メーカーは素材系、電機系、独立系に分類でき、それぞれサービスポジションが異なる
- 独立系である当社は、顧客が求める製品・技術に柔軟に対応でき、微細な部品を大口で生産

## 当社のサービスポジション



# 4.2022年3月期第2四半期決算



- 前年度上期はコロナ禍の影響を大きく受けたが、前年度下期からの需要回復が継続し、当上期は大幅な増収増益

	2021/3期 2Q累計		2022/3期 2Q累計		期比較	
	実績 (百万円)	売上比 (%)	実績 (百万円)	売上比 (%)	前年同期比 (%)	売上比増減 (pt)
売上高	10,464	100.0	13,714	100.0	+31.1	-
売上総利益	1,545	14.8	2,283	16.7	+47.8	+1.9
販管費	1,097	10.5	1,132	8.3	+3.2	△2.2
営業利益	448	4.3	1,151	8.4	+156.9	+4.1
為替差損	15	-	4	-	△73.3	-
経常利益	459	4.4	1,166	8.5	+153.7	+4.1
当期純利益	332	3.2	848	6.2	+155.4	+3.0



# 2022年3月期 第2四半期決算 業績報告 ② (前年度下期比較)

- 前年度下期からの世界的な自動車及び産業用機器の需要回復や、携帯端末などの消費マインドの改善基調が継続
- リードフレームを中心に、銅などの素材高を売価に転嫁、営業利益率は低下したが増収増益
- 純利益は前年度下期に特別利益(繰延税金資産)を計上したことにより減益

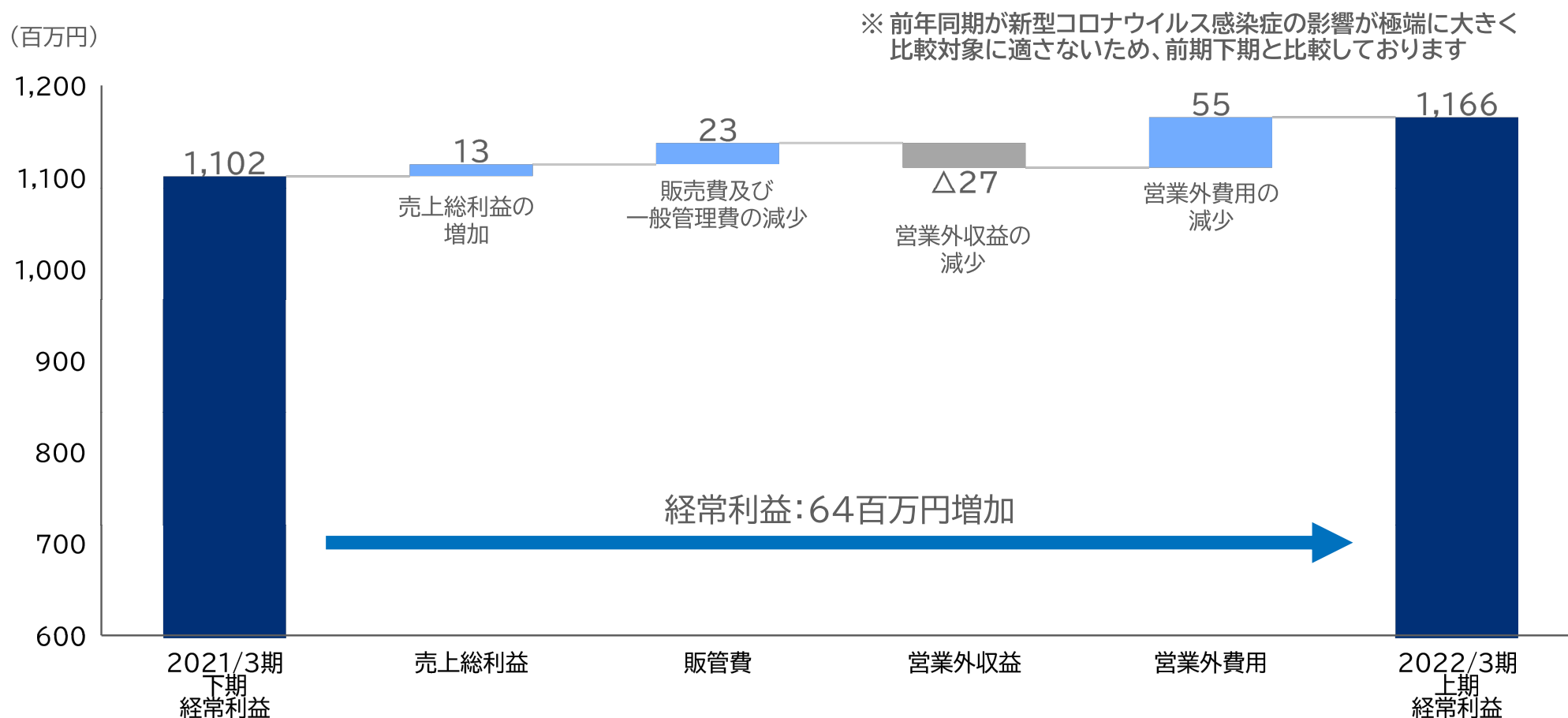
※ 前年同期比が新型コロナウイルス感染症の影響が極端に大きく比較対象に適さないため、前年度下期と比較しております

	2021/3期 下期		2022/3期 2Q累計		期比較	
	実績 (百万円)	売上比 (%)	実績 (百万円)	売上比 (%)	前期下期比 (%)	売上比増減 (pt)
売上高	12,535	100.0	13,714	100.0	+9.4	-
売上総利益	2,270	18.1	2,283	16.7	+0.6	△1.5
販管費	1,155	9.2	1,132	8.3	△2.0	△1.0
営業利益	1,115	8.9	1,151	8.4	+3.2	△0.5
為替差損	27	-	4	-	△85.2	-
経常利益	1,102	8.8	1,166	8.5	+5.8	△0.3
四半期純利益	1,157	9.2	848	6.2	△26.7	△3.0

- ・ IC・トランジスタ用リードフレームは、自動車向けや産業用機械向けを中心に好調継続
- ・ オプト用リードフレームは、交通インフラをはじめディスプレイ向けや自動車向けのLEDを中心に需要は回復基調
- ・ コネクタ用部品は、スマートフォンの新モデル向け部品の出荷が1Qから始まり、堅調に推移

単位:百万円	2021/3期							2022/3期			
	1Q	2Q	上期 累計	3Q	4Q	下期 累計	通期	1Q	2Q	上期 累計	前年 下期比
IC・トランジスタ用 リードフレーム	1,735	1,516	3,251	1,911	2,123	4,034	7,287	2,380	2,288	4,668	+15.7%
オプト用 リードフレーム	678	615	1,293	530	814	1,344	2,639	969	921	1,891	+40.7%
コネクタ用部品	2,530	3,054	5,584	3,686	3,112	6,798	12,384	3,320	3,440	6,761	△0.5%
その他	168	164	332	168	187	355	688	195	198	393	+10.7%
合計	5,113	5,351	10,464	6,296	6,238	12,535	22,999	6,866	6,848	13,714	+9.4%

- 売上総利益の増加…リードフレーム、コネクタ用部品とも前下期からの回復が続いた
- 販管費の減少…前期はコロナ禍により物流が混乱し運賃搬送費等が増加したが、今期は軽減
- 営業外損益の改善…前下期に津軽工場増築に関わるシンジケートローン手数料が発生した影響



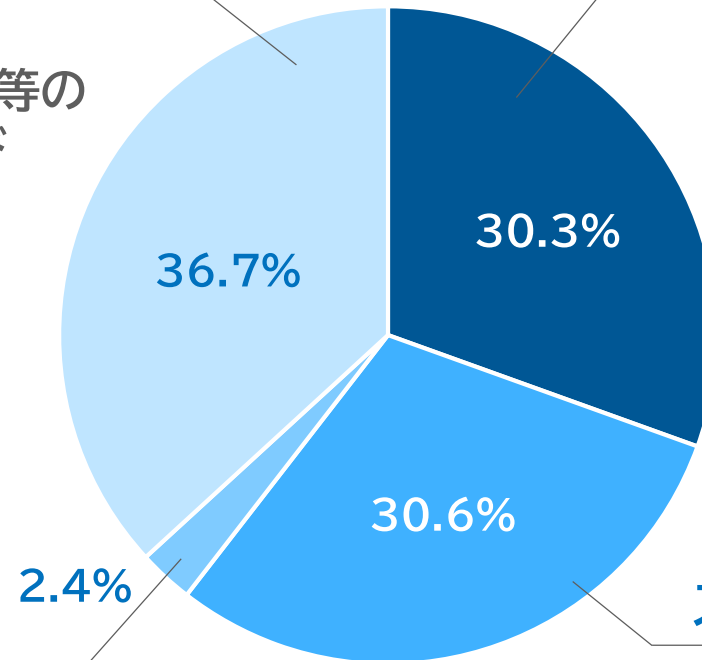
- ・ 車載、民生・産機・その他の顕著な復調により、本来の各分野1/3ずつという配分に回帰
- ・ ウェアラブル向け市場は成長が続いているが、上期は新商品発売前で一時的に調整

## 民生・産機・その他

- ・ 汎用的用途のパワー半導体用リードフレームや交通インフラ等のディスプレイ向けLED用リードフレームなどが増加

## 車載

- ・ 自動車の需要回復によりパワー半導体用リードフレームやエアバッグ用コネクタ等が復調しているが、半導体不足や受入国の感染拡大による影響から一部で調整



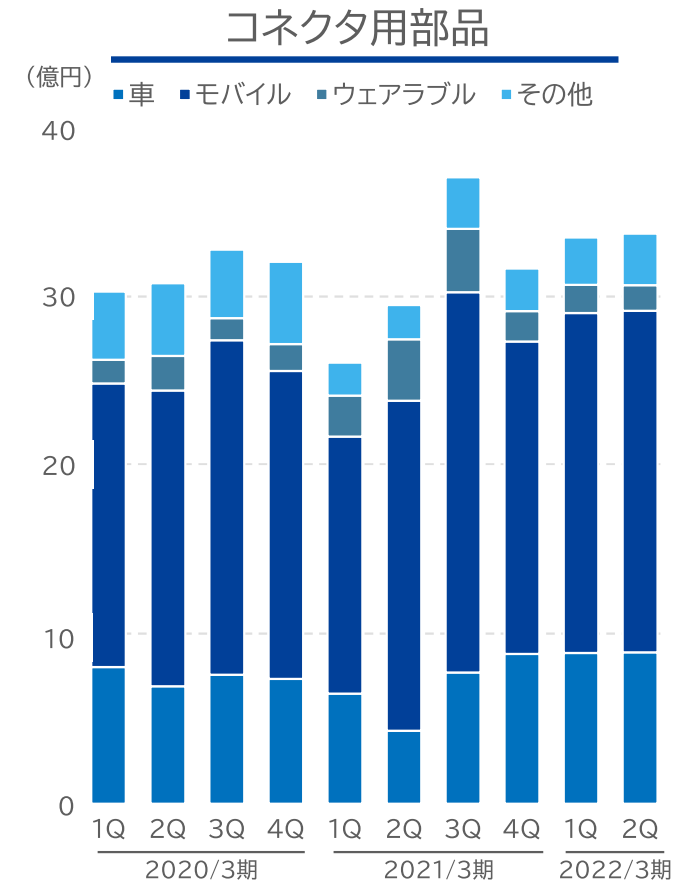
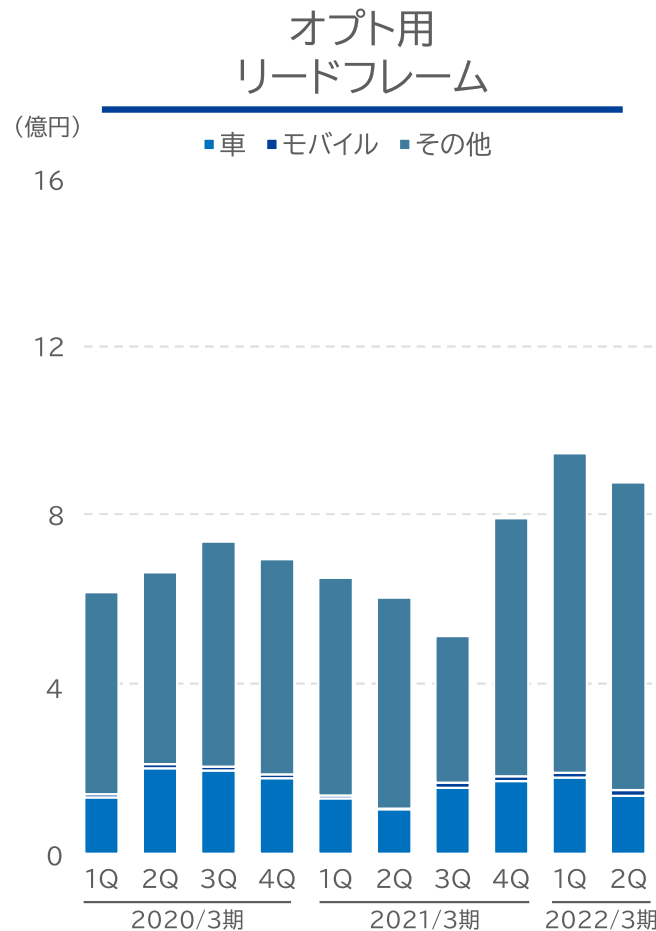
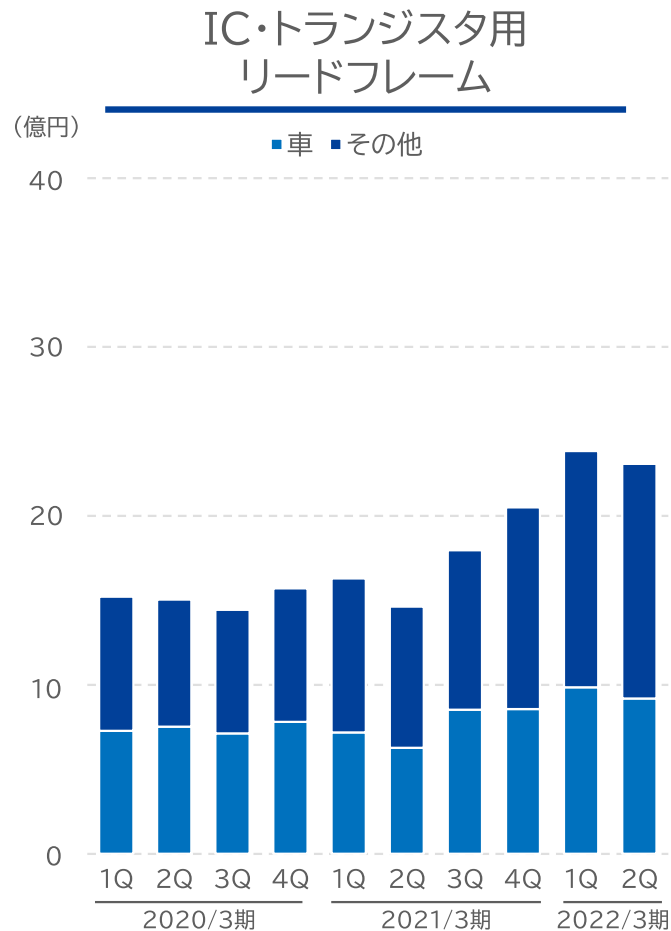
## ウェアラブル

- ・ 季節的要因および昨年後半以降の急伸から一時的な調整局面

## スマートフォン

- ・ 当期モデルは立ち上がりが早く1Qから出荷開始
- ・ 下期比では季節要因により構成比低下

- ・ リードフレーム、コネクタ用部品とも好調継続、コロナ禍前の2020年3月期上期の売上を上回った
- ・ 車載及び民生向けのパワー半導体需要がIC・トランジスタ用リードフレームをけん引
- ・ 中国の交通インフラ向けや大型ディスプレイ向け需要により、オプト用リードフレームは回復基調
- ・ モバイルなど情報通信端末の普及や、堅調な車載向けがコネクタ用部品の成長を支える



# 2022年3月期第2四半期 貸借対照表

- 売掛金は増収、有形固定資産は津軽工場の増築によってそれぞれ増加
- 自己資本比率は前期末65.4 %から62.0%と、3.4pt低下したが高水準

単位:百万円	2021/3期末	2022/3期2Q末	前年期末差
流動資産	14,143	16,675	+2,532
（内、現預金）	3,324	4,292	+967
（内、受取手形及び売掛金）	7,224	8,433	+1,209
固定資産	11,433	12,045	+611
（内、有形固定資産）	10,222	10,946	+723
総資産	25,577	28,721	+3,143
負債	8,838	10,884	+2,046
（内、有利子負債）	1,198	1,700	+502
純資産	16,739	17,836	+1,097
負債純資産	25,577	28,721	+3,143

- ・ 増益により、営業キャッシュフローは1,815百万円
- ・ 津軽工場の増築等増産対応投資により、投資キャッシュフローは△1,212百万円となったがフリーキャッシュフローはプラスで推移

単位:百万円	2021/3期 2Q累計	2022/3期 2Q累計	前年同期末差
営業活動によるキャッシュ・フロー	370	1,815	+1,446
税引前当期純利益	446	1,159	+712
減価償却費	717	830	+114
棚卸資産の増加	△345	△281	△64
投資活動によるキャッシュ・フロー	△775	△1,212	△437
有形固定資産の取得による支出	△887	△1,230	△343
財務活動によるキャッシュ・フロー	△128	206	+335
長期借入れによる収入	-	500	+500
長期借入金の返済による支出	△74	△49	+25
配当金の支払い額	△238	△272	△34
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,772	4,292	+1,520
フリーキャッシュ・フロー	△406	603	+1,009

# 5.2022年3月期業績見通し





## ※上方修正

- ・ リードフレーム・コネクタ用部品の需要は、パワー半導体やポータブル機器等の中長期的な成長から高水準を維持
- ・ 上期に在庫確保を目的とした前倒し受注も一部で発生し、業績は予想を上回って推移
- ・ 下期は、上期の前倒し受注による調整や季節調整を一部で見込むが、限定的なものと予想

	2021/3期			2022/3期				期比較	
	上期実績 (百万円)	通期実績 (百万円)	売上比 (%)	上期実績 (百万円)	期初予想 (百万円)	修正予想 (百万円)	売上比 (%)	前期比 (%)	売上比増減 (pt)
売上高	10,464	22,999	100.0	13,714	23,000	26,500	100.0	+15.2	-
売上総利益	1,545	3,815	16.6	2,283	3,850	4,150	15.7	+8.8	△0.9
販管費	1,097	2,252	9.8	1,132	2,200	2,250	8.5	+0.0	△1.3
営業利益	448	1,563	6.8	1,151	1,650	1,900	7.2	+21.5	+0.4
経常利益	459	1,561	6.8	1,166	1,600	1,900	7.2	+21.7	+0.4
当期純利益	332	1,489	6.5	848	1,350	1,500	5.7	+0.7	△0.8
1株当たり 純利益		221.66円	-		200.79円	222.87円	-	-	-

- IC・トランジスタ用リードフレームはパワー半導体向けなどの伸長により増収を予想
- オプト用リードフレームは、交通インフラをはじめディスプレイ向けや自動車向けのLEDを中心に復調
- コネクタ用部品はスマートフォン・ウェアラブル端末向けは堅調な推移を予測するが、上期に生じた一部の前倒し受注の影響を下期に見込み、通期では前期比5%増収を予想

	2021/3期			2022/3期				
	上期実績 (百万円)	通期実績 (百万円)	構成比 (%)	上期実績 (百万円)	期初予想 (百万円)	修正予想 (百万円)	構成比 (%)	前期比 (%)
IC・トランジスタ用 リードフレーム	3,251	7,287	31.7	4,668	7,423	9,000	34.0	+23.5
オプト用 リードフレーム	1,294	2,639	11.5	1,891	2,697	3,800	14.3	+44.0
コネクタ用部品	5,585	12,384	53.8	6,761	12,450	13,000	49.1	+5.0
その他	333	688	3.0	393	427	700	2.6	+1.7
合計	10,464	22,999	-	13,714	23,000	26,500	-	+15.2

- コネクタ用部品では津軽工場増築に伴う設備投資が大きく増加
- その他の設備投資はERPシステムの入れ替え等に伴うもの
- 津軽工場の新棟の竣工は11月末を予定しており、減価償却費の増加は軽微

	2021/3期	2022/3期	
	実績 (百万円)	予想 (百万円)	前年比 (%)
設備投資	2,173	4,365	+100.9
IC・トランジスタ用リードフレーム	210	273	+30.0
オプト用リードフレーム	184	285	+54.9
コネクタ用部品	1,732	3,421	+97.5
その他	45	386	+757.8
減価償却費	1,546	1,600	+3.4

## 6.中長期的施策の進捗



# ビジョン2030 1st STEP (2022年3月期～2024年3月期)

- 5月に発表した1st STEPでの売上高・営業利益目標は年度末に見直しを予定
- ウェアラブル端末等向けコネクタ、パワー半導体向けリードフレーム増産による増収
- 増収効果に加えて、自動化等により付加価値率(限界利益率)向上で、増益を計画

## 1st STEP 目標数値

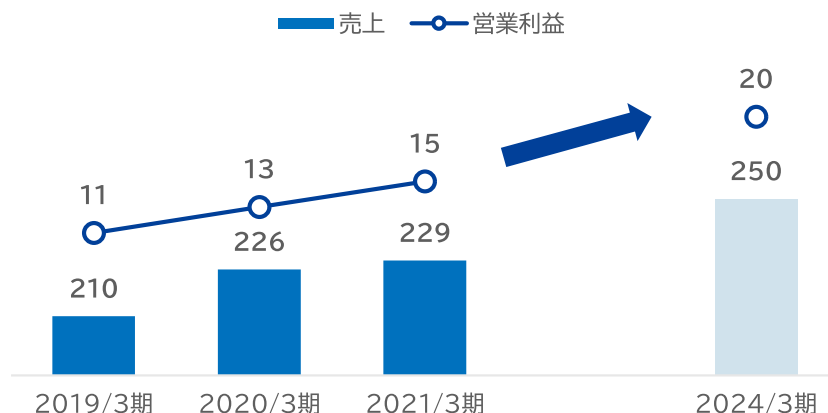


## 増収施策:成長分野への投資

情報通信分野(ウェアラブル端末等)  
⇒ 津軽工場生産能力増強

EV・自動運転分野への注力  
⇒ フィリピン工場での受注強化

## 売上高・営業利益



## 限界利益引き上げ施策

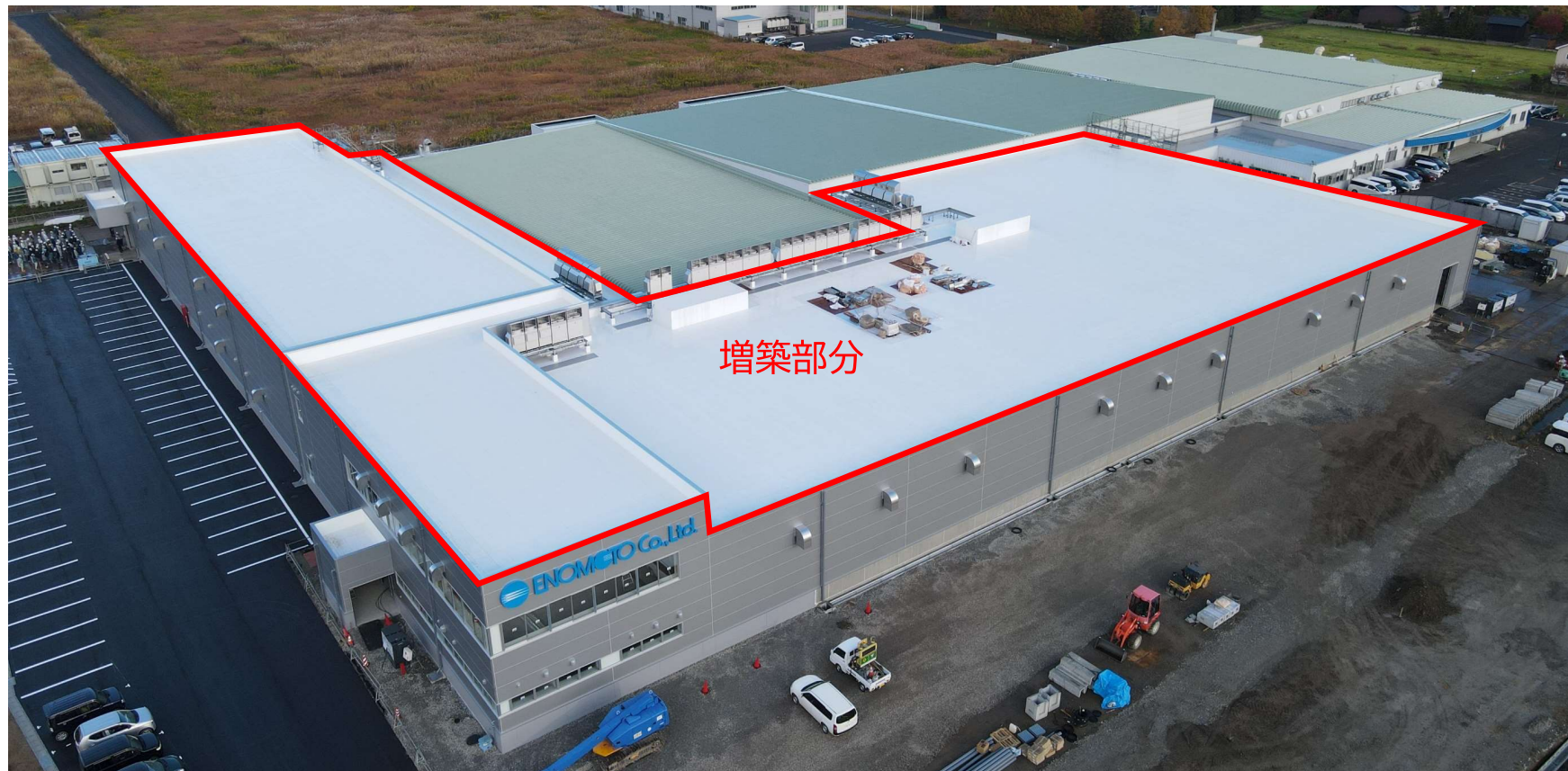
量産工程の自動化

金型製作のデジタル化

海外拠点の強化

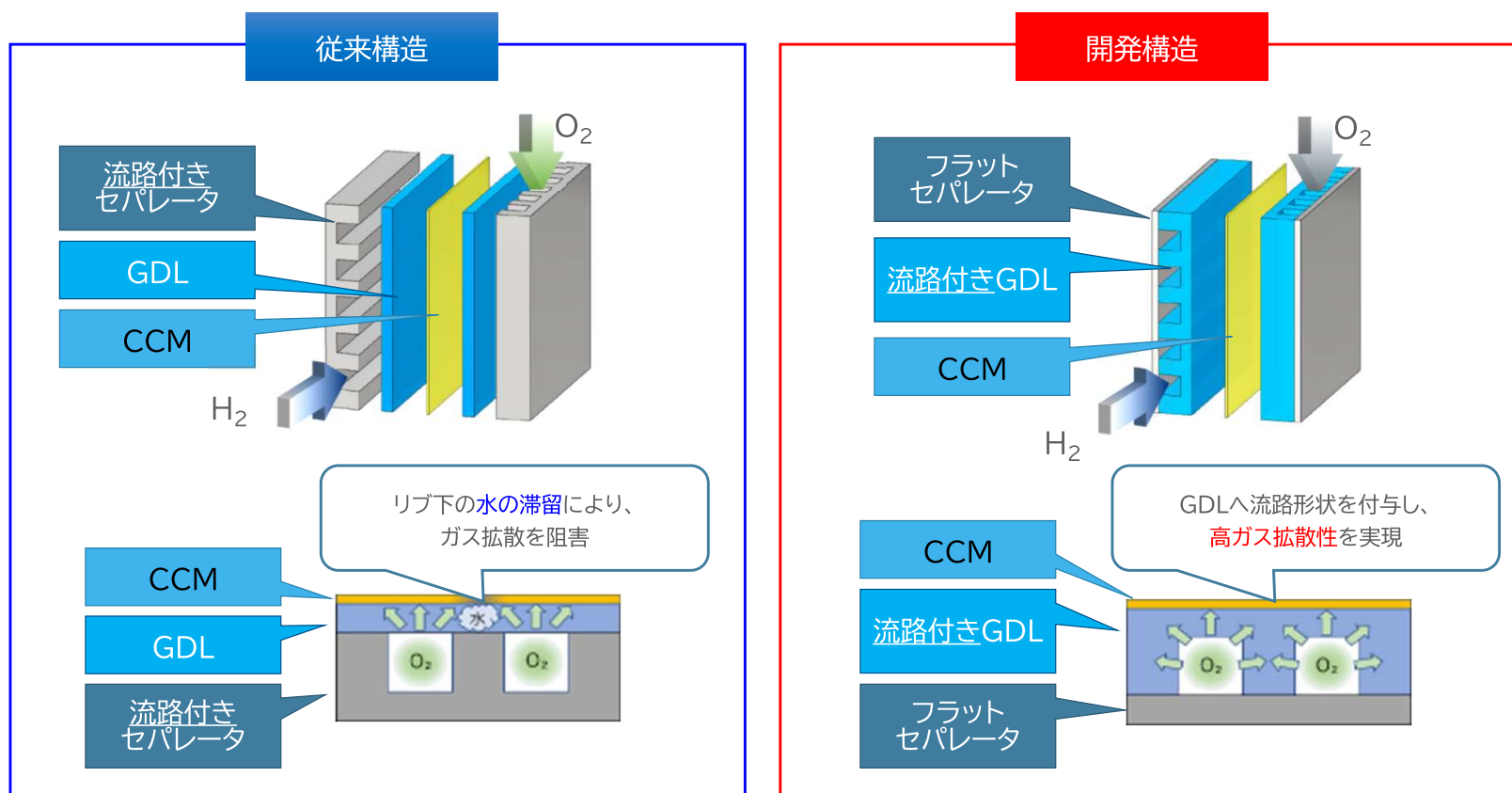
- 津軽工場増築は当初の計画通り11月末竣工予定。年明けの稼働開始に向けて準備進行中

既存工場床面積 :約 8,776㎡  
増築工場床面積(予定):約 7,162㎡  
増築後の工場床面積 :約 15,938㎡  
総投資額(概算) :31億円(建物及び機械、設備等)  
竣工 :2021年11月末 (当初予定の通り)  
引渡 :2021年12月中旬



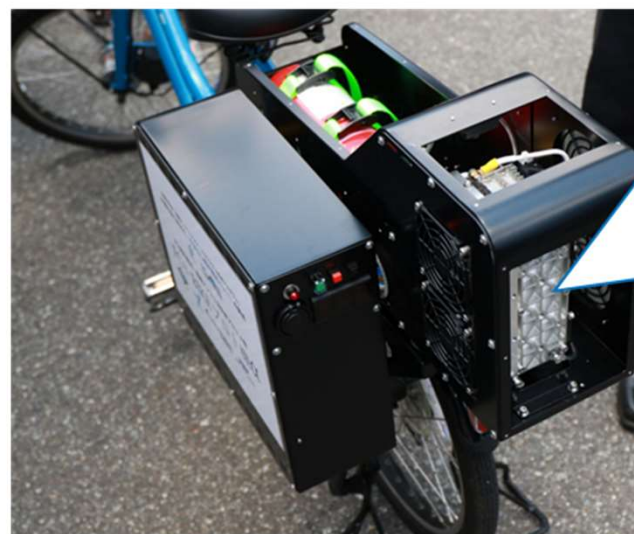
## ☆ 当開発事業は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO) 共通課題解決型産学官連携研究開発事業 採択プロジェクトです

- 固体高分子型燃料電池(PEFC)向けガス拡散層(GDL)一体型金属セパレータを山梨大学と共同開発
- 新開発の流路付きGDL(GDLFC+)で大幅な高電流密度化を実現、当社技術により汎用樹脂にガス流路を成形
- 金属セパレータ、GDLを自社生産し、ガスソケットと一体化し、コストを削減
- 2025年に燃料電池車向けのテスト開始、将来は電気自動車、ドローン、緊急電源、エネファーム等での実現を図る



# 電動アシスト自転車に 当社製「ガス拡散層一体型セパレータ」が搭載

- 5月31日(月)「燃料電池電動アシスト自転車試作機完成披露式」が山梨大学で挙行
- 日本で初めて制作された国産の燃料電池を電源とする電動アシスト自転車に当社製「ガス拡散層一体型セパレータ」が搭載
- 「燃料電池産業は今後の成長が見込める将来有望な分野。ぜひ県を挙げて支援していきたい」  
(長崎幸太郎 山梨県知事)



※山梨大学ホームページの写真を使用

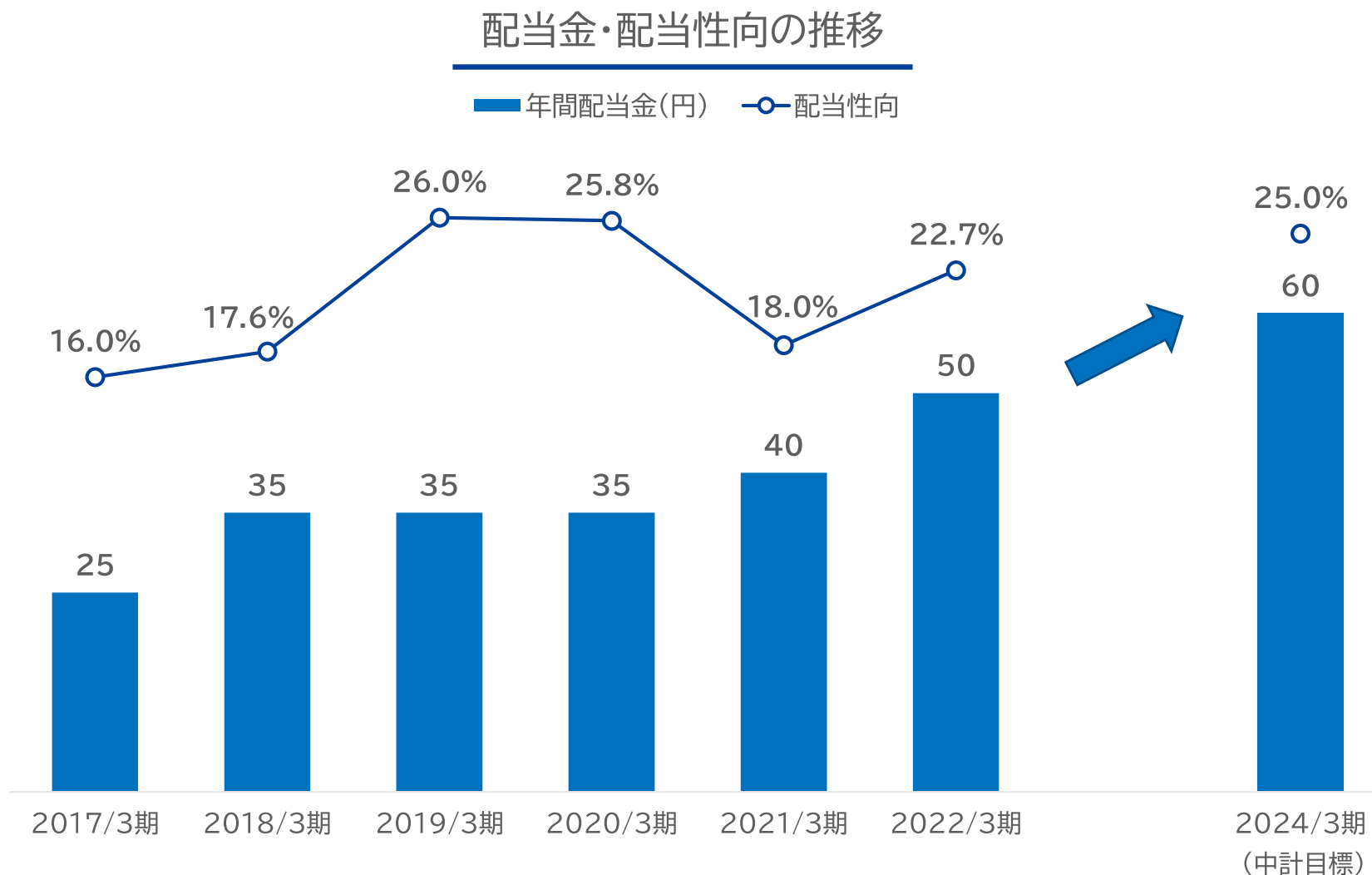
FCスタック



当社開発品



- 業績上方修正に伴い、年間配当予想も前回予想の1株当たり45円から50円に増配



# Appendix





社是

心技一体

経営理念

経営の中心は人であり、  
健全なものづくりを通じて、  
豊かな社会の実現に貢献する。

## ビジョン2030

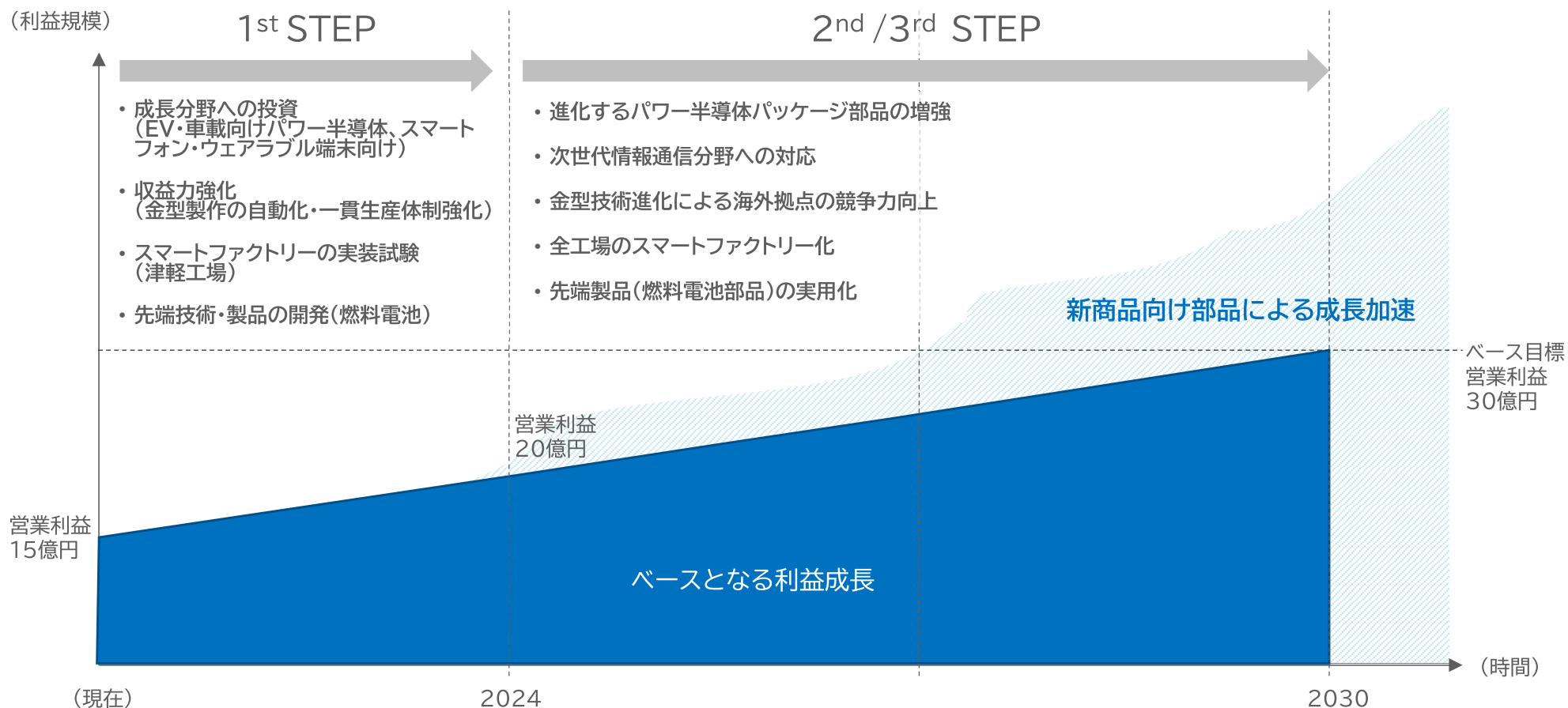
「金型の技術で未来を創る」

より小さく より速く 最先端の技術で  
暮らしとビジネスのベストパートナーを目指す

## ありたい姿

- 金型技術の進化で、最先端の市場に高品質な部品をスピーディに提供し続ける
- 失敗を恐れずチャレンジする職場環境づくりを通じてイノベーションを生み出す
- 燃料電池部品の実用化で脱炭素社会の実現に貢献する

- ・ ビジョン2030では、既存製品の需要拡大を見据えつつ、付加価値率の向上を軸とした各種施策で主力製品のマーケットの成長を上回る利益成長を図る
- ・ 長期的には、先端製品の需要急拡大への対応や、先端分野の研究開発を継続し、一貫生産体制の強みを活かして、次世代情報通信分野等で成長



## 注意事項

事業の展望、業績予想等の将来の動向にかかる記載につきましては、歴史的事実ではないため、不確定な要素を含んでおります。

現在入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により予想と異なる結果となる可能性があることをご了承願います。